

要注意外来生物リスト 爬虫類・両生類 (案)

被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

和名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
リノガメ	<i>Macrolemys temmincki</i>	要	人の生命、身体に係る被害	カヅキガメと同様に危険動物に指定されている。
ミシシippアカミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	在来のカメ類との競合のおそれがある。大量に飼育されており、規制によって大量に遺棄される可能性がある。
キハラガメ	<i>Trachemys scripta scripta</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	生態がミシシippアカミガメと同様で、やや多く流通しており、逸出個体がしばしば見つかる。定着してミシシippアカミガメと同様の生態系影響を引き起こす懸念がある。
クーターガメ(アハラガメ)属全種	<i>Pseudemys</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	生態がミシシippアカミガメとやや類似しており、また比較的多く流通しており逸出個体がしばしば見つかる。定着してミシシippアカミガメと同様の生態系影響を引き起こす懸念がある。
チヌガメ属の3種	<i>Graptemys</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	ニセチヌガメ <i>Graptemys pseudogeographica</i> 、フタチヌガメ <i>G. ouachitensis</i> (サブチヌガメ <i>G. a. sabinensis</i> を含む)、ミシシippチヌガメ <i>G. kohnii</i> の3種。生態がミシシippアカミガメとやや類似しており、また流通しており逸出個体がしばしば見つかる。定着してミシシippアカミガメと同様の生態系影響を引き起こす懸念がある。
ハナガメ	<i>Ocadia sinensis</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)、交雑	逸出個体がしばしば見つかるが、亜熱帯に分布し、南日本では定着のおそれがある。飼育下でクサガメとの交雑と思われる例があり、野外でも在来種との交雑のおそれがある。
チュウゴクスッポン	<i>Polodiscus sinensis sinensis</i>	要	生態系(競合・駆逐・遺伝的攪乱)	在来のスッポンとの交雑や競合のおそれがある。利用の実態等について把握をすることが必要。
アメリカスッポン属全種	<i>Apalone</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	<i>A. spinifera</i> は、アメリカ東部原産ながら、西海岸などにも定着。国内では、やや多く流通しており、温帯に産するため逸走個体が定着するおそれがある。
グリーンイグアナ	<i>Iguana iguana</i>	要	生態系(競合・植生破壊)	大量に取り引きされるが、きわめて大型になり持て余されやすく、遺棄された個体が頻繁に報告される。
ヒョウモンタゲモドキ	<i>Eublepharis macularius</i>	要	生態系(野生動物への病原体蔓延)	寄生性の原虫クリプトスポリジウム <i>Cryptosporidium</i> sp.に高い割合で感染しており、さまざまな野生爬虫類への媒介、蔓延が懸念される。この原虫は徳之島に生息する希少種ヒトタゲモドキに対して致死的であり、致死率はきわめて高いことが知られる。
アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	実験用等として、大量に利用されている。
ヒキガエル属の5種	<i>Bufo</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	ヨーロッパヒキガエル <i>Bufo viridis</i> 、テキサスヒキガエル <i>Bufo debilis</i> 、ナツヒキガエル <i>Bufo terrestris</i> 、カルフォルニアヒキガエル <i>Bufo valliceps</i> 、ロコヒキガエル(キャノンヒキガエル) <i>Bufo paracnemis</i> の5種。日本においてヒキガエル属が外来種となっている例は多い。これらの種はヒキガエル属の中でも輸入が比較的多く、主として温帯に分布する。

\*要:要注意リスト掲載種、日本生態学会ワ-スト100 IUCNワ-スト100